

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	教育学		担当者 資格・役職等	大学教授	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
授業の概要	【目標】 教育の営みに関連して、人間形成の意味や学びのロジック、教育の制度・方法・評価、人間の他者と社会のかかわりについて理解を深める。 【概要】 人間の成長・発達について、家族、学校、社会との関連で省察するとともに、教育のあるべき方向や方法についても考えていく。とりわけ、教育がヒトとヒトの関係的な営みであり、社会的事象であること、現代社会においてどのような危機があり、どのような対策が必要なのかという点に注目していく。				
授業計画	1. イントロダクション 2. 人間の成長・発達・社会化・教育 3. 家族と教育 4. ライフサイクルと人間形成 5. 教育の理念 6. 現代学校論 7. 現代社会と子ども 8. 学びの基礎理論 9. 教育関係論 10. 生活指導 11. 教育と評価 12. 教育・福祉・社会 13. 現代教育の課題 14. 人間学の課題と展望 15. 全体のまとめ				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野「教育学」（医学書院）				
参考文献	随時紹介				
成績評価の方法	平常点を基本にして、筆記試験あるいはレポートにて評価する。合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	大学教授が教育学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	社会学		担当者 資格・役職等	元大学教授	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	社会全体の仕組みを通じて人間関係の成り立ちを理解し、人間関係の在り方を考える機会とする。				
授業の概要	看護は人が人をサポートする対人サービスである。これは人間社会における崇高な社会的行為である。また、それは医療機関という組織の中での活動であり、少人数のチームによる活動である。したがってその少人数の人間関係が常に円滑に維持されることが重要である。 そうしたことから、看護に携わる者にとっては、社会全体の仕組みを知りつつ、身近な人間関係を適切に作り上げるためには、人間関係の成り立ちを深く理解する能力が求められる。 そこで、社会学が追究してきた課題をたどりつつ、家族や地域社会の課題に沿って、今日的な社会問題を取り上げ、その中の人間関係の在り様を考える。				
授業計画	1. 社会学の成立と人間関係論 2. 家族と家制度 3. イエとムラの議論 4. 戦後社会の課題 5. 家業と職業 6. 産業革命のもたらしたもの 7. 地域社会の変容と課題① 8. 同 ② 9. 地域社会と環境問題① 10. 同 ② 11. 沖縄の社会と文化① 12. 同 ② 13. 同 ③ 14. 戦後と復帰後の沖縄 15. 筆記試験				
テキスト	特に指定しない。				
参考文献	適宜資料紹介する。				
成績評価の方法	レポートについては別途指示。 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	元大学教授が社会学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	薬理学		担当者 資格・役職等	薬剤師	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	薬が生体に及ぼす主作用と副作用などの理解を深める。				
授業の概要	薬理学とは、“薬と生体との間に起こる相互作用の現象を研究する科学である”と定義される。すなわち薬が生体の機能に及ぼす作用を薬理作用といい、薬理学は薬物治療をする上で重要な基礎科目である。授業では薬の生体に及ぼす主作用と副作用などを中心に述べる。				
授業計画	1. 薬理学の概念① 2. 薬理学の概念② 3. 末梢神経系作用薬 4. 中枢神経系作用薬 5. 心臓・血管作用薬① 6. 心臓・血管作用薬② 7. 抗炎症薬 8. 呼吸器系作用薬 9. 消化器系作用薬 10. ホルモン系・生殖系作用薬 11. 抗感染症薬 12. 抗悪性腫瘍、免疫治療剤 13. 救急薬、皮膚科眼科用薬 14. 漢方薬 15. 試験				
テキスト	「わかりやすい薬理学」（ヌーヴェルヒロカワ）				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	病院薬剤師が薬理学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	基礎看護技術Ⅱ		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験19年）	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	基礎看護技術Ⅱの授業では基礎看護技術Ⅰでの学習に積み上げ、基礎看護学実習から看護師らしく考えられる思考の土台を作ることを目指す。				
授業の概要	看護の知識や経験が浅くても今ある知識や技術を使い、目の前の患者さんに何らかの反応（看護）をする。この思考と患者さんとのコミュニケーションを進めていくことで必要な情報を得ることにつながり、今後の予測も含め患者の状況を捉えられ、より患者の状況にあった看護を実践できるようになる。 基礎看護技術Ⅱの授業では基礎看護技術Ⅰでの学習に積み上げ、基礎看護学実習から看護師らしく考えられる思考の土台を作ることを目指す。さらに援助論Ⅱで領域別の特徴を踏まえた看護を考えられるよう、既習の問題解決法のプロセスを踏まえ、事例を通して健康障害の看護の視点を学習する。				
授業計画	事例をもとに、チーム学習を中心に授業を計画する。 Ⅰ．看護行為に至る思考過程 - 全体像を捉える 情報収集・情報整理からアセスメントまで - 全体像から看護問題を明確にし、優先度を考える。 - 看護計画立案・実施 - 評価・修正について - リフレクション・試験（OSCE）ガイダンス Ⅱ．事例情報を提示し、看護計画まで立案し、具体的な援助計画をもとにその場の状況に合った看護を模擬患者に提供する。（OSCE） 技術提供は決められた時間内で行い、60点満点で評価する。				
テキスト	専門分野 1 基礎看護学 2 「基礎看護技術Ⅰ」（医学書院）				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学（医学書院） 看護過程の解体新書（学研） からだがみえる 人体の構造と機能（メディックメディア）				
予習	基礎看護技術Ⅰの授業で習った問題解決法のプロセスを、事例展開に活かせるようにしておくこと。				
復習	基礎看護学実習に向けて、症状からアセスメントができ、看護援助を行えるような思考過程を身につけておくこと。				
成績評価の方法	課題の提出（40点）、OSCE評価（60点） 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院などでの臨床経験を持つ専任教員が看護技術について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	基礎看護技術Ⅴ		担当者 資格・役職等	専任教員・専任教員 (臨床経験14年、11年)	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	病気・障害等により自力では日常生活に支障をきたす対象に対して、倫理的配慮とエビデンスをふまえ、その対象に応じた日常生活援助技術を学ぶ。 その方法として知識をもとに、移動・清潔・食事・排泄のすべての要素を含むパフォーマンス課題に取り組む。看護技術の原則・原理はもちろんのこと、より効率的で効果的な技術の習得を目指す。				
授業計画	授業内容 【授業1～10回】 事例をもとに、対象に必要な日常生活援助(食事・排泄・姿勢・移動・清潔)の方法を考え演習を行う。 グループで演習を行う中で学習を深めていく。 【授業11～14回】 日常生活援助技術の演習を行い、ブラッシュアップする。 ※授業予定の詳細は、授業開始時に配布 【授業15回】 筆記試験				
テキスト	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院)				
参考文献	看護技術プラクティス (学研) 看護がみえる1、2 (メディックメディア)				
予習	各日常生活援助技術の基礎知識・技術の復習は、自己学習し授業に臨む。				
成績評価の方法	筆記試験・成果物・授業参加度(成果物の提出を含む) 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が看護技術について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅰ		担当者 資格・役職等	認定看護師・認定看護師 専任教員（臨床経験18年）	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	地域・在宅援助論Ⅰでは、疾患や障害を抱えながら「生きる」「暮らす」を支えるための視点や支援を学習し、多職種協働を中心に看護師の役割を考える。				
授業の概要	何らかの支援を必要としながら生活する人々の健康レベルや発達段階はさまざまである。 地域・在宅援助論Ⅰでは、疾患や障害を抱えながら「生きる」「暮らす」を支えるための視点や支援を学習し、多職種協働を中心に看護師の役割を考える。 看護を学ぶ学習者として、地域や在宅における看護活動の可能性を考える機会とする。				
授業計画	1. 地域・在宅看護の詭弁 1) 病気や疾患を持ちながら生活を営む人々を支援する 2) 退院支援のあり方と看護職同士の連携 3) 多職種連携と継続支援 4) ケアマネジメント 5) 地域マネジメント 6) 社会制度と社会資源 7) 地域・在宅看護に関わる基本理念 2. 福祉用具の販売・レンタル会社見学 ・詳細は後日別紙にて説明 3. 訪問看護の実際 1) 訪問看護を行う事業所 4. 訪問看護の実際 1) さまざまな対象者と看護 2) 訪問看護における多職種との連携 3) 在宅療養をささえる家族との関わりや支援 5. 試験				
テキスト 参考文献	在宅看護論① 地域療養を支えるケア（ナーシンググラフィカ） 在宅看護論② 在宅療養を支える技術（ナーシンググラフィカ） 公衆衛生がみえる（メディックメディア） 国民衛生の動向				
成績評価 の方法	筆記試験・授業参加度。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	訪問看護師と看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が地域・在宅看護援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ		担当者 資格・役職等	看護師 専任教員（臨床経験18年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	基礎看護技術を応用し、在宅特有の生活援助技術の理解を深める。				
授業の概要	在宅看護では、看護師が療養者(生活者)の暮らしの中に入り看護を行う。よって対象者の生活習慣や家族関係に合った健康教育や、相手に配慮した立居振舞いは、より良い関係性の中で看護を行うために重要であると言える。 既に基本的援助技術は習得しているため、地域・在宅援助論Ⅱではどの家庭にもあるものを工夫して使い、家庭でできる生活援助技術・医療援助技術を学ぶ。原理原則を守りながら工夫して提供することは、災害時の看護にも繋がる考え方である。視野を広く持ち技術提供する思考を学ぶ。				
授業計画	試験を含む15回の授業			担当講師 授業時間（回数）	配点
	1. 在宅ケアにおける生活援助技術 訪問時の対応とコミュニケーション技術 訪問者としての立居振舞 療養支援の実際（初回訪問） 生活の場で行われる看護技術			専任教員 19時間（9回）	70
	2. 在宅での医療処置 ・在宅での経管栄養法、胃瘻、IVH ・褥瘡ケア ・留置カテーテル ・在宅酸素療法 ・薬剤管理 ・呼吸管理 ・看取り など			非常勤講師 11時間（5回）	30
	3. 自宅療養における災害対策				
	4. 試験				
テキスト 参考文献	ナーシンググラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術 国民衛生の動向 公衆衛生がみえる（メディックメディア）				
成績評価 の方法	筆記試験、授業参加度。 60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	訪問看護師及び看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が地域・在宅看護援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験18年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標 授業の概要	ここでは、それまで得た知識を使い、事例をもとに看護過程の展開を行う。地域で行われる看護は、看護師だけの力では成り立たない。疾患を含む本人の身体的・精神的・社会的アセスメントに加え、家族アセスメント、地域アセスメントを織り交ぜながら、療養者とその家族の療養生活を支える支援体制を作り上げていく。それを誰にでも伝わるように紙面に起こす演習を行う。				
授業計画	1. 事例から考える看護過程 1) 事例紹介・自己学習 2) 療養者の状況（情報収集） 3) 家族・地域の状況（情報収集） 4) アセスメント・関連図 5) 看護計画 6) 援助の実際 7) 看護記録				
テキスト 参考文献	ナーシンググラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術				
成績評価 の方法	筆記試験、授業参加度。 60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が地域・在宅看護援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	成人看護学援助論 I		担当者 資格・役職等	認定看護師・認定看護師	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	臨床で遭遇する頻度の高い疾患の症状・検査・治療・心理面に対する看護を学ぶ。				
授業の概要	<内分泌系> 内分泌代謝疾患をもつ患者の病態、心理、看護の目的を理解し、看護実践のための基礎知識を学ぶ。 <循環器系> 循環器疾患の患者の理解と看護の目的・役割、疾患の経過と看護、患者の理解の上での基礎知識の確認、臨床での話しを入れながら進める。また、視聴覚機器（パワーポイント等）を用いてさらに理解を高める。				
授業計画	<内分泌系> 1. 患者の理解、看護の目的と機能 2. 症状に対する看護 3. 検査と介助 4. 疾患を持つ患者の看護（糖尿病、甲状腺など）<12H 6回 配点50点> <循環器系> 1. 患者の理解 1) 身体的な問題 2) 心理・社会的問題 2. 看護の目的と機能 1) 看護の目的 2) 看護の役割 3) 疾患の経過と看護 3. 症状に対する看護 1) 胸痛に対する看護 2) 動悸に対する看護 3) 浮腫に対する看護 4) 呼吸困難に対する看護 4. 検査を受ける患者の看護 1) 心臓カテーテル法を受ける患者の看護 2) 心電図検査を受ける患者の看護 3) 心エコー検査を受ける患者の看護 5. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 保存的治療を受ける患者の看護 2) 心臓カテーテル治療を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者の看護 6・7. 疾患を持つ患者の看護 1) 心筋梗塞患者の看護 2) 狭心症患者の看護 3) 心不全患者の看護 4) 高血圧患者の看護 <16H 8回 配点50点> <試験>				
テキスト 参考文献	専門分野Ⅱ 成人看護学 6 「内分泌・代謝」 3 「循環器」 (医学書院)				
成績評価 の方法	筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	認定看護師が成人看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	成人看護学援助論Ⅱ		担当者 資格・役職等	看護師 専任教員（臨床経験14年）	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	臨床で遭遇する頻度の高い疾患の症状・検査・治療・心理面に対する看護を学ぶ。				
授業の概要	＜消化器系・女性生殖器系＞ ・消化器系、女性生殖器系の疾患を持つ患者の病態、心理、看護の目的を理解し、看護実践のための基礎知識を学ぶ。 ・特にがん性疼痛のある患者の看護、化学療法を受ける患者の看護、食事療法を受ける患者の看護、手術療法を受ける患者の看護について学びを深める内容とする。 ・紙上事例を用いて、成人・周術期、消化器系患者の事例を用いて、看護過程の展開方法を学ぶ。				
授業計画	＜消化器系＞ 1. 患者の理解、看護の目的と機能 2. 症状に対する看護（悪心・嘔吐・腹痛・吐血・下血） 3. 1）検査と介助 ①内視鏡検査 ②造影検査 2）薬物療法を受ける患者の看護①がん性疼痛のある患者の看護 4. 1）薬物療法を受ける患者の看護②化学療法を受ける患者の看護 2）治療・処置を受ける患者の看護 ①食事療法を受ける患者の看護 ②手術療法を受ける患者の看護 5. 疾患を持つ患者の看護 胃がん・大腸がん 6. 疾患を持つ患者の看護 肝臓がん・膵臓がん 7. 疾患を持つ患者の看護 乳がん・子宮がん （14時間 7回 配点50点） ＜事例演習を中心に＞ 1. 成人期・周術期（急性期）にある患者事例による看護過程を展開する ・手術看護の実際 ・周術期患者の特徴（重要な情報・アセスメントの視点・看護計画等） （14時間 7回 配点20点）				
テキスト 参考文献	専門分野 成人看護学5「消化器」9「女性生殖器」 ナーシンググラフィカ 「周術期看護」（メディカ出版） 看護過程の解体新書（学研）				
成績評価 の方法	筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	病院看護師及び看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	老年看護学概論・保健		担当者 資格・役職等	認定看護師・認定看護師 専任教員（臨床経験11年）	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	老年期にある対象の特徴を知る。社会構造の変化、高齢者の保健・医療・福祉の問題に対する理解を深め、老年看護の機能と役割、特有な看護技術を理解する。				
授業の概要	1．老いを生きる高齢者を理解したうえで、超高齢社会における高齢者の自立と権利を守るための社会制度について介護保険を中心に理解し、老年看護の考え方を学ぶ。 2．高齢者の特徴を理解したうえで、高齢者のヘルスアセスメントや生活機能を整える看護について学ぶ。 3．高齢者を含む家族を理解し、生活・療養の場における看護について認知症を中心に学ぶ。				
授業計画	1～4. 老いを生きる高齢者を理解したうえで、超高齢社会における高齢者の自立と権利を守るための社会制度について介護保険を中心に理解し、老年看護の考え方を学ぶ。 （9時間） 5. 高齢者の生理的特徴を理解したうえで、高齢者のヘルスアセスメントについて学ぶ。 （2時間） 6～11. 高齢者の特徴を理解したうえで生活機能を整える看護を学ぶ。 ①食生活 ②嚥下 ③歩行移動 ④活動と休息 ⑤排泄 ⑥清潔 （12時間） 12～14. 高齢者を含む家族を理解し、生活・療養の場における看護について認知症を中心に学ぶ。 （6時間） 15. 認定試験				
テキスト 参考文献	専門分野 老年看護学（医学書院） 専門分野 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 公衆衛生がみえる（メディックメディア）				
成績評価 の方法	筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	認定看護師と看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学概論・保健について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	老年看護学援助論Ⅰ		担当者 資格・役職等	認定看護師・看護師 専任教員（臨床経験11年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	老年期に代表的な疾患を中心に症状・検査・治療に対する看護の方法を理解する。				
授業の概要	加齢による影響を受けやすい＜呼吸器系＞＜運動器系＞＜腎・泌尿器系＞について、老年期の特性をふまえ学習する。 それぞれ高齢者に多い疾患の特徴とアセスメント、疾患の経過と看護、患者の理解の上での基礎知識（人体の構造と機能・病態）の確認、疾患を持つ患者の看護の目的を、臨床での実践例を含めながら理解できるように視覚的にも補いながら進める。 高齢者を総合的（身体的・心理的・社会的）にとらえ、高齢者に特有な症候・疾患・障害を踏まえ、急性期での急激な変化から回復期への看護を学び、そのなかで多職種との連携が必要であることを事例検討を通し理解を深める。				
授業計画	〈呼吸器系〉＊老年期の特性を踏まえ学習する。 1. 患者の理解、看護の目的と機能 2. 症状に対する看護 3. 検査と介助 4. 疾患を持つ患者の看護（10時間 5回 配点35点） ―― 〈運動器系〉＊老年期の特性を踏まえ学習する。 1. 患者の理解（高齢者の機能、評価） 保存療法を受ける患者の看護（牽引・ギプス・副子固定） 2. 高齢者に特有な疾患と看護（骨粗鬆症） 3. 手術を受ける患者の看護 （高齢者に起こりやすい周術期の反応・合併症） 4. リハビリを受ける患者の看護 （身体機能・認知機能に応じたりハビリ） 5. 事例演習（大腿骨頸部骨折・変形性股関節症）（11時間 5回 配点35点） ―― 〈腎・泌尿器系〉＊老年期の特性を踏まえ学習する。 1. 老年期における身体機能（腎・泌尿器系）の変化 2. 事例 ※慢性腎臓病CKDの患者 3. 対象の理解 アセスメント 4. CKDの患者の看護を考える（8時間 4回 配点 30点） 試験				
テキスト 参考文献	専門分野 老年看護学、老年看護 病態・疾患論（医学書院） 専門分野 成人看護学10「運動器」（医学書院） 専門分野 成人看護学8「腎・泌尿器」（医学書院） 専門分野 成人看護学2「呼吸」（医学書院）				
成績評価 の方法	筆記試験 配点／呼吸器35点 運動器35点、腎・泌尿器30点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	認定看護師、看護師及び看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	老年看護学援助論Ⅱ		担当者 資格・役職等	認定看護師 専任教員（臨床経験11年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	老年期に代表的な疾患を中心に症状・検査・治療に対する看護の方法を理解する。				
授業の概要	<脳神経系> 1. 脳神経疾患の病態を理解し、症状に合わせた看護を学ぶ。 1) 脳神経疾患患者への看護は、発症直後から治療と並行し、重症化回避と廃用症候群の予防、個々の障害に応じた日常生活援助のなかでのリハビリテーションなどを支援する役割を担っていることについて学び、理解を深める。 2) 重症化回避と廃用症候群の予防、日常生活の支援や維持、再発予防教育、社会資源の活用支援など、急性期から生活期まで看護師が担う役割は幅広く、病期や実践場面によって異なることを学ぶ。 2. 老年期にある対象者の、加齢と障害の程度に応じた看護を実践するために必要な知識とアセスメントを学ぶ。 1) 加齢による機能低下・脳神経疾患とそれに伴う障害の程度に応じた日常生活の援助方法を、臨床判断し看護実践に繋げられるよう、臨床事例を通して学ぶ。 健康課題を抱える高齢者のケアに焦点を絞って学習していく。 老年期にある対象を生活機能の観点からアセスメントし、健康課題をとらえ健康の状態に応じた看護を、事例を通して学ぶ。				
授業計画	〈脳神経系〉＊老年期の特性を踏まえ学習する。 1. 脳神経疾患の病態と治療 2. 治療を受ける患者の看護 3. 機能障害を持つ患者の生活支援 4. 脳神経疾患や高齢者に用いられる概念・理論・評価 5. 患者・家族の理解 事例検討・グループワーク (15時間 7回 配点50点) 1. 老年の看護過程展開、事例紹介 2. 事例に基づき情報収集と情報整理、解釈 3. 情報の分析、アセスメント 4. 関連図・全体像の把握 5. 看護問題抽出 6. 看護目標・看護計画 7. 看護記録・評価について・まとめ (15時間 7回 配点50点) 試験				
テキスト	専門分野 老年看護学、老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 専門分野 脳神経 (医学書院) など				
参考文献	「脳卒中治療ガイドライン」(協和企画)「病気が見えるVol.7脳・神経」(メディックメディア)学会発表資料および厚生労働省発表による資料など				
成績評価の方法	筆記試験 配点／脳神経系50点 授業参加度・成果物50点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	認定看護師および看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	小児看護学概論・保健		担当者 資格・役職等	看護師・看護師 専任教員（臨床経験21年）	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	少子化、核家族化という日本の構造的変化のもとで「いかに子どもを守り育むか」という時代の要請に沿った、小児看護の果たすべき役割を学ぶ。				
授業の概要	概論では、小児看護の対象となる子どもとその家族の特徴を学び、その対象を理解するのに役立つ概念や理論を学ぶ。また子どもの成長・発達の小児看護の対象理解とともに、より健康的な成長・発達を支援するのに必要な知識として学ぶ必要性を伝えていく。 保健では、小児看護の対象の健康問題の現状と小児期全体を通した連続的なつながりの中で成長・発達を支える日常生活援助を学ぶ。				
授業計画	授業内容			該当するテキスト内容	
	導入 小児看護学の構成			第1編小児看護概論	
	1. 子どもとはどのような存在かを学び、小児看護の目標は何か、看護に求められる役割を理解する。さらに小児看護・医療の歴史、国際的動向、課題と今後の展望まで学びを広げていく。			第1章：小児看護とは	
	2. 小児を守る法律と制度について学ぶ。			第2章：Ⅰ小児看護・医療の歴史 Ⅲ小児看護・医療の国際的動向、Ⅳ小児看護・医療の課題と展望 第3章：Ⅰ小児看護医療における法律	
	9時間（4回）				
	1. データをもとに小児看護に関連した統計を学ぶ。			第1編小児看護概論	
授業計画	1) 人口の動向 2) 出生と家族にかかわる統計			第2章：Ⅱ小児看護・医療における諸統計	
	3) 小児の死亡にかかわる統計			第3章：Ⅱ子どもの権利条約、Ⅲ医療における子どもの権利、Ⅳ小児医療・小児看護における倫理的配慮	
	2. 小児看護・医療における子どもの有する権利について学ぶ。			第4章：小児保健	
	1) 子どもの権利条約 2) 医療における子どもの権利				
	3) 倫理的配慮				
	3. 小児保健について学ぶ。			第2編小児各期の成長・発達に応じた看護	
授業計画	1) 母子保健と子育て支援について			第2章：小児看護における概念と理論	
	2) 学校保健の施策について				
	3) 予防接種の意義と対象疾患				
	4) 難病や障害をもつ小児への保健・福祉について				
	4. 小児看護において必要な概念・理論について学ぶ。				
	1) 自我・認知の思考の発達に関する概念と理論				
授業計画	2) 母子関係に関する概念と理論				
	3) 発達と学習に関する概念と理論				
	4) 家族関係に関する概念と理論				
	5) 小児の健康促進に関わる概念と理論			10時間（5回）	
	1. 小児の特徴と成長・発達について学ぶ。			第2編小児各期の成長・発達に応じた看護	
	1) 成長・発達・発育の概念と定義			第1章：小児の特徴と成長・発達	
授業計画	2) 成長・発達の区分・原則、成長・発達の評価について				
	3) 成長に関する因子について			第3章：胎児期～乳児期	
	4) 免疫について			第4章：幼児期	
	5) 発達について（原子反射・姿勢反射、運動発達の側面等）			第5章：学童期	
	6) 心理・社会的な成長・発達の過程			第6章：思春期・青年期	
	2. 小児各期の看護について学ぶ。				
授業計画	1) 胎児期・新生児期・乳児期 2) 幼児期 3) 学童期				
	4) 思春期・青年期				
	10時間（5回）				
	試験				
テキスト 参考文献	専門分野 小児看護学①「小児看護学概論，小児保健」（メヂカルフレンド社） 公衆衛生がみえる（メディックメディア）				
成績評価の方法	筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	看護師及び看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が小児看護学概論・保健について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	小児看護学援助論 I		担当者 資格・所属等	医師・医師・医師・医師 認定看護師	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	小児看護における疾患、治療法、特殊技術の修得を目指す。				
授業の概要	小児における主要な疾患の病態・検査・治療の基本を学ぶ。 小児看護における特殊技術を、実技を通して学ぶ。				
授業計画	小児看護でよく遭遇する健康問題・障害とその治療 1. 皮膚疾患 2. 呼吸器疾患 3. 循環器疾患 4. 消化器疾患 5. 腎尿路疾患 6. 内分泌・代謝疾患 7. 感染症 (10時間 5回 配点40点)				
	8. 血液疾患・小児がん 9. アレルギー疾患 10. 免疫疾患・膠原病 11. 新生児の特徴と疾患 12. 神経・筋疾患 13. 遺伝子・染色体の異常と形態異常 14. 精神領域の疾患 (8時間 4回 配点30点)				
	小児看護における特殊技術（実習室での演習となります） 1. 救急処置（蘇生法・事故予防） 2. 計測・バイタル測定（フィジカルアセスメント） 3. 幼児体験（子どもへの接近法） 4. 処置とプレパレーション 薬物療法（経口与薬、座薬、輸液管理 他） 吸引・吸入・保育器・経管栄養・採尿等 (10時間 5回 配点30点) 試験				
テキスト	専門分野 小児看護学②「健康障害をもつ小児の看護」 (メヂカルフレンド社)				
参考文献	専門分野 小児看護学 2「小児臨床看護学各論」 (医学書院) 「今日の小児治療指針」 (医学書院) 「ベッドサイドの小児の診かた」 (南山堂) 「ナースの小児科学、今日の小児治療指針」 「こどものフィジカルアセスメント」 その他				
成績評価の方法	筆記試験。 配点／疾患(40点、30点) 小児看護における特殊技術(30点) 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	小児科医師及び認定看護師が小児看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	小児看護学援助論Ⅱ		担当者 資格・役職等	認定看護師 専任教員（臨床経験21年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	小児の健康障害が小児と家族に及ぼす影響・反応と小児の主な症状・疾患に対する看護を事例を通して理解を深める。				
授業の概要	健康障害が小児と家族に及ぼす影響と反応、小児の主な症状および疾患に対する看護をできるだけ、事例を用いて理解を深める。小児看護の対象は、子どもだけでなく家族も看護の対象となることを基本理念とし、看護師のはたすべき役割を理解する。 ・事例演習 小児の事例を通して、子どもの特性・小児看護の特徴を理解する。				
授業計画	- 小児における疾病の経過とアセスメント - 症状を示す小児の看護 - 検査、処置を受ける小児の看護 - 健康障害を持つ小児と家族の生活と看護 - 疾患をもった小児の看護；低出生体重児、新生児疾患 〃；アレルギー疾患、代謝性疾患 〃；感染症 〃；呼吸器疾患、循環器疾患 〃；消化器疾患、血液疾患、悪性新生物 〃；腎・泌尿器疾患、神経疾患 〃；精神疾患、虐待 試験（16時間 8回 50点） 事例演習 ①小児看護における看護過程展開の特徴、事例提示 ②情報整理・分析、情報アセスメント ③全体像の把握 ④看護問題の抽出 ⑤看護目標・看護計画の立案 （②～⑤については主に個人ワークですすめていく（12時間 6回 50点）				
履修における授業準備	事例演習の講義前：小児看護学概論・保健、小児看護学援助論Ⅰでの学び（特に小児の成長・発達、各期の看護について）を復習しておく。 事例演習の講義開始後：授業時間以外も利用し各自看護過程展開をすすめる。（計15時間程度）				
テキスト	専門分野 小児看護学①「小児看護学概論、小児保健」 専門分野 小児看護学②「健康障害をもつ小児の看護」 （メヂカルフレンド社）				
参考文献	「看護過程の解体新書」(学研)				
成績評価の方法	筆記試験および課題。配点／看護50点（50分試験）、事例50点。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	認定看護師及び看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が小児看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	母性看護学概論・保健		担当者 資格・役職等	看護師 専任教員（臨床経験12年）	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	母性の特徴を理解し、母性の健康に関連する諸問題や、母性を守る医療・保健制度の概要について理解する。				
授業の概要	1. 母性看護学は、思春期から老年期にある女性とその家族やパートナーと子どもを対象とする。対象の健康を性と生殖の側面から考え、看護的な視点からアプローチや援助を行う。そのための母性看護の役割や対象の変遷を学ぶ。 2. 母性の特徴を理解するとともに、母性の健康に関する諸問題や母性を守る医療・保健の制度について学ぶ。また、母性を取り巻く社会情勢について認識し、社会における母性看護の役割について学ぶ。 3. 女性のライフサイクルと、各ステージにおける身体的・精神的・社会的特徴を理解し、女性特有の健康問題と看護について理解する。また、女性の各ステージにあった保健指導の必要性和その実際を学ぶ。 4. 母性の一生を通して、母子の健康の保持・増進と母性の機能を適切に遂行していけるための知識及び技術を学ぶ。また、母子保健をとりまく倫理的問題・医学的課題について理解し、母性看護の考え方や看護師の果たす役割を考える。				
授業計画	1. 母性・父性・親性の概念と役割 2. 母性看護の役割 3. 母性看護の目的と特徴 4. 母子と家族の発達 5. 母子保健と法律 (16時間 8回 配点50点) 6. 女性の生涯における健康問題と看護 1) 思春期 2) 成熟期 3) 更年期 4) 老年期 7. 現代社会における女性の健康問題と看護 8. 試験 (12時間 6回 配点50点)				
テキスト	専門分野 母性看護学①「母性看護学概論，ウィメンズヘルスと看護」 (メヂカルフレンド社)				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験及び授業の参加度（非常勤講師50点、専任教員50点）合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師及び看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学概論・保健について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	母性看護学援助論 I		担当者 資格・役職等	医師 専任教員（臨床経験12年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	①妊娠・分娩の過程における母と子の安全保障が看護の必要条件であること、更に②妊産婦の多様なニーズに応えられる看護を行えることをふまえ、Keywords、Key phrase的な授業を心掛けていく。				
授業計画	1. 妊娠① 2. " ② 3. 異常妊娠① 4. " ② 5. 正常分娩① 6. " ② 7. 異常分娩① 8. " ② 9. 産褥と新生児 10. 新生児 (20時間 10回 100点) ----- 11. 妊娠・異常妊娠・正常分娩・産褥・新生児の知識 12. " 13. " 14. " (8時間 4回) 15. 試験				
テキスト	専門分野 母性看護学②「マタニティサイクルにおける母子の健康と看護」 (メヂカルフレンド社)				
参考文献					
成績評価 の方法	筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	産婦人科医師と看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	母性看護学援助論Ⅱ		担当者 資格・役職等	看護師 専任教員（臨床経験12年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	妊娠・分娩・産褥婦、新生児の特徴を学び、事例を通し母性看護の役割について理解する。				
授業の概要	妊娠の成立、胎児の発育、妊娠時の母体の変化から妊娠・産褥の生理を理解し、妊産褥婦の看護と保健指導の実際を学ぶ。そして、母児関係を保つための看護師の役割について理解する。また、妊娠・分娩・産褥期の異常の早期発見、異常妊娠・分娩・産褥への処置とその看護の要点について学ぶ。 母性の看護過程 正常褥婦の看護過程の展開を学ぶ。 紙上患者の事例について、健康に経過する褥婦の生理的变化をとらえ、ウェルネス看護診断の意義を理解し、アセスメントを行う。				
授業計画	1. 母親の心理的变化 2. 家族の変化 3. 妊娠期における母子の看護（妊娠初期～妊娠中期） 4. 妊娠期における母子の看護（妊娠中期～妊娠末期） 5. 健康問題を持つ妊婦の看護 6. 分娩期における母子の看護 7. 健康問題を持つ産婦の看護 8. 産褥復古を促す援助 9. 母親になる過程のアセスメント 母乳育児を支える看護 10. 産褥期・育児期における母子の看護 健康問題を持つ褥婦の看護 11. 新生児の看護 12. 試験 (22時間 11回 配点80点) 事例演習 情報の分析・アセスメント・看護診断・看護問題の抽出				
テキスト	専門分野 母性看護学②「マタニティサイクルにおける母子の健康と看護」（メヂカルフレンド社）				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験、授業態度 レポート、課題の達成状況 出席状況 配点／看護80点 事例・テスト20点 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師及び看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	精神看護学概論・保健		担当者 資格・役職等	看護師 専任教員（臨床経験19年）	
開講時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	心の健康・心のメカニズムについての概要の理解、精神障害者の歴史的な位置づけ、置かれている現状、精神保健活動、関連法規を学び、精神疾患、精神障がいの意味を理解する。				
授業の概要	社会環境は近年急激な変化を遂げ、人々の生活や心と身体に大きな影響を及ぼしている。精神看護の基盤は、こうした現代社会を生きる人間へのトータルの理解の眼差しであると考ええる。 精神看護学概論では、看護学における精神看護学の位置づけ、精神看護の目的、対象、看護者の役割と機能、精神看護の基本的技術について学習する。 また、精神障害者の歴史的な位置づけ、置かれている現状、精神保健活動、関連法規を学び、精神疾患、精神障がいの意味を理解する。 精神看護学保健では、心の健康・心のメカニズムについての概要を学び、更に心の発達と健康の関係を各年代に沿って学ぶ。また、人間関係や環境と心の働きについて学び、心の問題への対応に結びつけていく。				
	<保健><概論> 1. 心の健康 2. 人間関係と心の働き 3. 心の問題への対応 4. 環境と心の働き 5. 心の健康・不健康、心の病気の考え方 6. 危機状況と心の働き 7. 精神看護学の考え方 8. 社会環境の変化と社会病理 9. 精神障がい・患者の理解と考え方 10. 地域精神保健活動の展開		担当:非常勤講師 時間:15時間(7回) 試験配点:50点		
	<概論> 1.社会のなかの精神障害 1)精神障害と治療の歴史 2)日本における精神医学・精神医療の流れ 3)精神障害と文化—多様性と普遍性 4)精神障害と社会学 5)精神障害と法制度 6)おもな精神保健医療福祉対策とその動向		担当：専任教員 時間：15時間（7回） 試験配点：50点		
	試験				
テキスト	専門分野 精神看護の基礎 精神看護学 1 				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	精神看護学援助論 I		担当者 資格・役職等	医師・看護師	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	精神機能障害の症状、主な疾患について理解し、対象への看護の基礎知識を学ぶ。また、心の健康問題を持つ対象の状況に応じた援助について学習する。 対象の特徴や観察の視点、心の健康問題が及ぼす日常生活への影響と援助技術・各種検査、治療時の援助・幻覚、妄想、不安、拒絶等の主な症状を持つ対象の理解、対応時の留意点、自立に向けての看護について学習する。				
授業計画	1. はじめに 2. 睡眠と覚醒、精神療法、薬物療法など 3. 統合失調症 4. うつ病、躁うつ病 5. 神経症、人格障害 6. 依存症、摂食障害 7. 外因性精神病、知的障害、発達障害 8. 試験 (7回 配点50点) 1. 2. 患者看護の基本 1) 患者の理解と考え方 2) 看護者の資質 3) 患者－看護者関係の理解 3. 観察と記録 4. 精神科における管理的問題と視点 5. 患者家族の理解とその援助 6. 診察・検査および治療に伴う看護 7. 統合失調症患者の看護 8. 躁うつ病患者の看護 9. てんかん患者の看護 10. 心因反応（神経症）・依存症患者の看護 11. 小児精神障害患者の看護 (7回 配点50点) 試験				
テキスト	専門分野 精神看護の基礎 精神看護学 1 専門分野 精神看護の展開 精神看護学 2 (医学書院)				
参考文献	看護のための精神医学 中井久夫・山口直彦 著 (医学書院)				
成績評価 の方法	授業参加度・筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	精神科医師と看護師が精神看護学援助論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	精神看護学援助論Ⅱ		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験19年）	
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	精神看護学援助論Ⅰでの内容を基に、心の健康問題を持つ対象の状況に応じた援助について理解を深める。				
授業の概要	精神疾患の理解を踏まえて対象の特徴とその状況に応じた看護を学習する。精神疾患を持つ対象を事例にした看護過程を実際に展開し、アセスメントや援助計画を立案することにより、基礎的知識・技術を深め考えることができる。 入院中の患者もいずれは地域に戻っていく生活者であるという視点で関わり、精神障がいとともにその人らしく生きるための看護の基本を理解する。また精神の障がいによる影響を踏まえその人らしさを支える看護の実際を考える。				
授業計画	事例をもとに精神の健康障害の看護を考える 1. 精神看護学における看護過程 ・精神看護のアセスメントとは ・アセスメントに用いられるおもな理論 2. 精神の看護過程展開 ①事例検討（対象理解） ・資料映像を用いて、対象理解を深める ・事例に基づき情報収集と情報整理、解釈 ②事例検討（情報分析、アセスメント） ③事例検討（全体像の把握） ④事例検討（看護問題の抽出・看護目標） ⑤事例検討（看護計画） ・関わり方の検討 3. まとめ 筆記試験				
テキスト	専門分野 精神看護の基礎 精神看護学 1 専門分野 精神看護の展開 精神看護学 2（医学書院）				
参考文献	看護過程の解体新書（学研）				
予習・復習	おもな疾患の病態について理解を深め、援助について事前学習をしておくこと。（課題レポート提出）事後にはさらに文献学習を進めること。				
成績評価の方法	授業参加度・筆記試験（60点）、課題提出（40点） 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が精神看護学援助論について教育を行う科目				